のなるやに至りては、史の之を記するものなし、されと驛路は元來使人往來の爲めに設けられたること既述の如くなれは、之か設置の年卽ち一二三五年以後、之に近き年に於て支那より和林方面に至りし官人の行路を研究し、更に之を其前後の有様に徵するとに於て、ほゞその正鵠を失はさるを得んか、今張德輝の邊堠紀行によりて先つ之を求めんとす、蓋し德輝は一二四七年丁未の年、忽必烈（世祖）の潛邸に招かれて、支那より漠北の地に至りしものにして、その潛邸の何れの地なるやは明らかに定めがたきも、唐古河卽ち Tan-gu 河の西方にして、和林の附近を通過して至りしことは彼の明記する處なり、今先つ茲にその原文を引かんか、『居旬日（燕京に居ること）而行、北過雙塔堡新店驛、入南口、度居庸關、出關之北口則西行、經榆林驛雷家店、及於懷來縣、縣之東有橋、横木而上下皆石、橋之西有居人聚落、而縣郭蕪沒、西過鷄鳴山之陽、有邸店曰平輿、其巔建僧舍焉、循山之西而北、沿桑乾河以上、河有石橋、由橋而西、乃德興府道也、北過一邸曰定防水、經石梯子、至宣德州、復西北行、過沙嶺子口及宣平縣驛、出得勝口、抵扼胡嶺下、有驛曰孛落、自是以北諸驛、皆蒙古部族所分主也、每驛各以主者之名名之、由嶺而上則東北行……非復中原之風土也、尋過撫州、惟荒城在焉、北入昌州、居民僅百家……州之東有鹽池、周廣可百里、土人謂之狗泊、以其形似故也、州之北行百餘里、有故壘隱然、連亘山谷、壘南有小廢城、問之居者云此前朝所築堡障也、城有戍者之所居、自堡障行四驛、始入沙陀際……凡經六驛而出陀、復西北行一驛、過魚兒泊、……自泊之西北行四驛、有長城頽址……亦前朝所築之外堡也、自外堡行一十五驛、抵一河深廣約什滹沱之三、北語云翕陸連、漢言驢駒河也、……河之北有大山、曰窟速吾、漢言黑山也……自黑山之陽、西南行九驛、復臨一河、深廣皆翕陸連之比……北語云渾獨剌、漢言兎兒也、遵河而西、行一驛、有契丹所築故城、……自是水北流矣、由故城而西北